おはなし六つ

桜田佐

(一) おまんじゅうやのくまさん

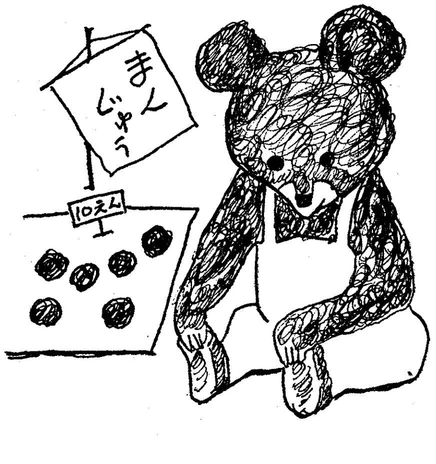
おまんじゅうやのくまさんが山の上でおかしやを始めました。

「さあ、いらっしゃい、いらっしゃーい、おいしいおまんじゅうだ、おまんじゅうだ。一つ十円だけど、きょうはただであげますよ。さあ、いらっしゃい、いらっしゃーい、おいしいおまんじゅうだ、おまんじゅうだ。」

うさぎがぴょんぴょんぴょんとんできました。

「くまさん、こんにちは、おまんじゅうをください。」

「やあ、いらっしゃい、いらっしゃい、さあ、どうぞおあがりなさい。」



うさぎは両手でおまんじゅうをかかえて、もくもくもくもくとたべました。
「ああ、おいしかった、ごちそうさま、さようなら。」
「さようなら、また、あしたいらっしゃい。」
うさぎはぴょんぴょんぴょんぴょんととんで帰りました。
ねずみがちゅうちゅうちゅうちゅうと走ってきました。
「くまさん、こんにちは、おまんじゅうをください。」
「やあ、いらっしゃい、いらっしゃい、さあ、どうぞおあがりなさい。」
ねずみは両手でおまんじゅうをかかえて、もぐもぐもぐもぐとたべました。
「ああ、おいしかった、ごちそうさま、さようなら。」
「さようなら、また、あしたいらっしゃい。」
ねずみはちゅうちゅうちゅうちゅうと走って帰りました。
にゃおーん、にゃおーん、こんどはねこのみけちゃんがきました。
「にゃおーん、にゃおーん、くまさん、こんにちは、おまんじゅうをください。」
「やあ、いらっしゃい、いらっしゃい、さあ、どうぞおあがりなさい。」
みけちゃんはおまんじゅうをぺろぺろぺろぺろとたべました。
「ああ、おいしかった、ごちそうさま、さようなら。」
「さようなら、また、あしたいらっしゃい。」
ねこのみけちゃんは静かに山をおりました。
もうもう、もうもう、こんどは牛がのそりのそりとやってきました。
「もうもう、くまさん、こんにちは、おまんじゅうをください。」
「やあ、いらっしゃい、いらっしゃい、さあ、どうぞおあがりなさい。」
牛はおまんじゅうをむしゃむしゃむしゃむしゃとたべました。
「ああ、おいしかった、ごちそうさま、さようなら。」
「さようなら、また、あしたいらっしゃい。」
牛はゆっくりゆっくり、山をおりました。
おしまいに大きなぞうが、どしん、どしん、どしん、どしん、とやってきました。
「くまさん、こんにちは、おまんじゅうをください。」

「やあ、いらっしゃい、いらっしゃい、さあ、どうぞおあがりなさい。」

ぞうははなのさきにおまんじゅうをしゅっとくっつけると、はなを口のところへもってきて、ぱくりとたべました。ぞうはおまんじゅうをたくさんたべました。

しゅっ、ぱくり、しゅっ、ぱくり、しゅっ、ぱくり、しゅっ、ぱくり、ぞうはおまんじゅうをみんなたべてしまいました。

「ああ、おいしかった、ごちそうさま。」

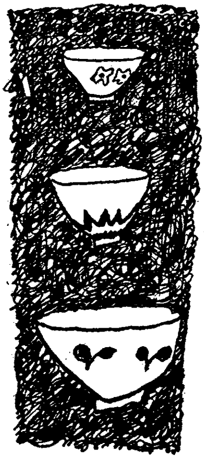
ぞうはごろんと横になって、ぐうぐうぐうぐうぐうとねむってしまいました。

おまんじゅうやのくまさんも、おまんじゅうがすっかりなくなったので、ぞうと同じように、ごろんと横になって、ぐうぐうぐうぐうとねむってしまいました。

（身ぶり手ぶりでおもしろく話してください。）

× × ×

(二) 大きな茶わん



みち子ちゃんは四つです。ようちえんの生徒です。おべんとうを入れたかごをさげて、出かけます。

ようちえんの先生ははぎわら先生です。先生はきのうみんなにこんな話をしました。

「あすからみなさんに牛乳をあげますから、お茶わんとおさじをもっていらっしゃい。」

みち子ちゃんは牛乳が大すきです。たくさん飲みたいと思いました。

「ねえ、おかあさん、あしたようちえんで牛乳飲むのよ。お茶わんとおさじをもっていくんですって。」

「あら、そう、いいことね。じゃ、あなたのお茶わんもってらっしゃい。」

「こんな小さいのいや、もっと大きいのがいいの。」

「じゃ、おねえさんのにしましょうか。」

「もっと大きいの。」

「じゃ、おかあさんのにしましょうか。」

「もっと大きいの。」

「まあ、わたしのお茶わんよりも大きいの？　じゃ、おとうさんのお茶わん？」

みち子ちゃんはやっと、

「うん。」

といいました。

「あんな大きなお茶わん？」

「うん。」

そして、きょう、みち子ちゃんは大きな大きなおとうさんの茶わんとさじをもってようちえんへ行きました。

十時に先生が、

「さあ、これから牛乳をあげますから、みなさんつくえの上にお茶わんを出してください。」

といいました。

「はーい。」

いろいろな茶わんがならびました。みち子ちゃんがうちでごはんをたべるときの茶わんぐらいの大きさのものが、いちばんたくさんありました。おねえさんぐらいのやおかあさんぐらいのも少しありました。しかし、みち子ちゃんのおとうさんの茶わんのように大きいのは一つもありませんでした。

「わあ、大きい。」

とみんながびっくりしました。

「牛乳がたくさんはいるだろうね。」

「ずるいなあ、あんな大きいのもってきて。」

先生もびっくりしました。みち子ちゃんのおとうさんの茶わんはとくべつ大きな茶わんですから。

先生はちょっと考えましたが、みち子ちゃんの茶わんはとくべつに大きいので、あとまわしにして、牛乳をいちばんあとで入れることにしました。ところが、ひとりひとりに入れているうち、先生はいつのまにか入れすぎたとみえて、牛乳のはいった大やか

んがみち子ちゃんの茶わんの前にきたときは、牛乳はほんの少ししか残っていませんでした。
「あら、ごめんなさい。これっぽっちになっちゃって。」
そして、みち子ちゃんはみんなよりもずっとずっと少なく、すこーしだけ牛乳を入れてもらいました。みち子ちゃんはかなしくなって、
「シク、シク、シク、シク。」
となきだしました。
先生は牛乳のちょっぴりはいったみち子ちゃんの茶わんを見せて、
「みなさん、みち子ちゃんはせっかく大きなお茶わんをもってきたのに、これっぽっちしかありません。かわいそうだと思う人は、おさじに一ぱいずつあげてください。」
みんなが、
「はーい。」
といいました。そして、
「かわいそうだな。」
「かわいそうね。」
と話しあいました。
先生がみち子ちゃんの茶わんをもってひとりひとりの前を通ると、たみ子ちゃんも、よし子ちゃんも、とも子ちゃんも、たけしくんも、かずおくんも、一郎くんも、みんなが自分の茶わんの牛乳をおさじに一ぱいずつすくっていれました。そしたら、どうでしょう、ひとまわりしたら、みち子ちゃんの大きな茶わんに牛乳がいっぱいになりました。みち子ちゃんはうれしそうに、にこにこして、
「どうもありがとう。」
といいました。

幼児の教育　第五十八巻　第六号
六月号 ©　定価五〇円
昭和三十四年五月二十五日印刷
昭和三十四年六月一日発行
東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
編集兼発行者　津守真
東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会
東京都板橋区志村町五番地
印刷所　凸版印刷株式会社
東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番
◎本誌ご購読についてのご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。